

高等学校 令和5年度(1学年用)

教科

情報

科目

情報 I

教科: 情報

科目: 情報 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 7 組

教科担当者: ( 1 組 ~ 7 組 金子 )

使用教科書: ( 東京書籍 -新編- 情報 I )

使用教材: ( 情報最新トピック集2023、プリント 等 )

単元の目標:

情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。

【知識及び技能】

事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。

【思考力、判断力、表現力等】

情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

評価規準:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
情報と情報技術を問題の発見や解決に活用するための知識や技術を身につけている。 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりを理解することができる。	事象を情報とその結びつきの視点から捉えることができる。 問題の発見や解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。	情報社会との関わりについて考えることができる。 問題の発見や解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。

評価方法と割合:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・確認テスト(50%) ・制作物・課題(50%)	・確認テスト(50%) ・制作物・課題(50%)	・意欲的に学ぼうとする態度 自己評価等ふりかえりの状況(100%)

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配 当 時 間	評 価		
								1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組				
1	4	・情報モラル ・秋留台 SNS ルール ・個人情報の流出	・インターネットを利用する際に守るべき決まりごとについて理解する。 ・情報モラルに配慮して情報を発信することができる。 ・SNS等で加害者や被害者にならないための対応が判断できる。			○	○	・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									4	
	5	・傷つかない傷つけないために ・著作権 ・キーボード配列とタイピング	・著作権の内容を理解できる。 ・学校で利用できる著作物を判断できる。 ・キーボードについて、どのキーが何に対応しているかを知る。	○	○	○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									6		
	6	・ローマ字入力、文章作成 ・ショートカットキー ・文書処理ソフトウェアで作品制作	・文書処理ソフトウェアの基本操作が身についている。 ・文書処理ソフトウェアで、図、表、画像を利用する方法が身についている。 ・ショートカットキーを使えるようにする。	○		○	・確認テスト ・Teams、Classi を利用しての発表 ・振り返りシートの記入									8		
	7	・Society5.0 ・ネットコミュニケーションの特徴 ・デジタルの世界へ	・Society5.0とは何か理解できる。 ・メディアの特性とコミュニケーションの特徴を、その変遷も踏まえて理解できる。 ・デジタルとは何か理解できる。	○		○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・振り返りシートの記入									4		
2	9	・数値と文字のデジタル表現 ・音と映像のデジタル表現 ・色と動画のデジタル表現	・2進法と10進法の仕組みを考えることができる。 ・デジタルデータとアナログデータを区別できる。 ・デジタル情報とアナログ情報のメリットとデメリットを考えることができる。			○	○	・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									8	
	10	・情報デザイン ・ユニバーサルデザイン ・情報デザインの流れ	・情報デザインの目的を理解できる。 ・抽象化、可視化、構造化の方法を理解できる。 ・ユーザインタフェースの問題点を考えることができる。 ・想定したユーザの考えや行動を分析できる。	○	○	○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									8		
	11	・プレゼンテーションソフトウェアの使い方 ・プレゼンテーションで作品制作	・他者にどのように発表をするか伝わりやすいか理解できる。 ・プレゼンテーションソフトウェアの基本操作が身についている。	○		○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・振り返りシートの記入									8		
	12	・映像制作	・企画書に基づき作成したい動画を構想し、作成することができる。			○	○	・確認テスト ・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									6	
3	1	・プログラムの基本構造1 ・プログラムの基本構造2	・プログラムの仕組みを理解できる。 ・プログラムの組み方を知り、どのように実行されるのかを理解できる。	○		○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・小テスト ・振り返りシートの記入									6		
	2	・簡単なプログラムを作る ・発展的なプログラム1 ・発展的なプログラム2	・実行させたい目標を作りプログラムを組み、目標に到達できる。 ・発展したプログラムの組み方を知り、どのように実行されるのかを理解できる。	○	○	○	・確認テスト ・Teams、Classi を利用しての発表 ・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									6		
	3	・Scratch / micro:bitで作品を作る	・プログラムを組み作品をつくることができる。	○	○	○	・Teams、Classi を利用しての発表 ・授業内での課題提出 ・振り返りシートの記入									4		

教科・科目・講座等	商業・簿記	4単位	3学年（自由選択）
教科書・副教材等	新簿記・簿記検定問題集	教科担当	影山

学習の到達目標	企業経営の基礎になっている会計制度の内容を知り、計算や記帳に習熟させる。簿記の基本原則を理解させるとともに、合理的な会計処理を行う能力を育てる。 希望者には簿記検定の資格取得指導を行い資格取得を目指す。
---------	--

学期	月	学習内容	進捗状況	アキルスタンダード	評価	学習のねらい	評価の観点	配当時間
一学期	4	○ 簿記の基礎 ○ 資産・負債・資本と貸借対照表		・勘定科目を理解し、暗記する。 ・貸借対照表、損益計算書を作成できる。		・簿記特有の用語の理解と取引の発生から貸借対照表と損益計算書を作成するまでの基本的な手続きについて、その記帳の流れを中心に理解する。	・筆記用具・電卓・教科書・赤ペン・定規を持ってきているか。 ・授業をきちんと聞いて、集中して取り組んでいるか。	56
	5	○ 収益・費用と損益計算書 ○ 取引と勘定				・取引の二重性、貸借平均について理解を深める。	・提出物が出されているか。帳簿記入が正確に丁寧に行われているか。 ・貸借平均の原理が理解できているか。	
	6	○ 仕訳と転記 ○ 仕訳帳と総勘定元帳 ○ 試算表		・仕訳と転記ができる。		・仕訳帳と元帳の記帳法を理解させ、主要簿としての役割を理解する。		
	7	○ 精算表 ○ 決算		・精算票を作成できる。		・試算表の作成と決算整理を伴わない、決算の基本的な手続きについて理解させる。		
二学期	9	○ 現金・預金などの取引 ○ 商品売買の取引 ○ 掛け取引		・勘定科目を理解し、暗記する。		・簿記特有の用語の理解を深める。いろいろな勘定科目について、理解を深める。	・勘定科目を理解しているか。 ・仕訳が正確に行われているか。	60
	10	○ 手形の取引 ○ 有価証券の取引 ○ その他の債権の取引 ○ 固定資産の取引		・有価証券、約束手形、小切手の意味を理解する。 ・固定資産、資本、税金を理解する。		・決算の手続きを行い、貸借対照表・損益計算書・8桁清算表を作成させる。	・表の作成に関して、理解ができているか。 ・課題を集中して取り組んでいるか。 ・提出物が毎時間きちんと提出されているか。	
	11	○ 個人企業の資本と税金 ○ 営業費の取引 ○ 決算		・決算仕訳ができる。				
	12	○ 精算表		・精算表を作成できる。				
三学期	1月から3月まで	○ 伝票 ○ 検定問題練習		・伝票問題ができる。 ・3級問題ができる。		・検定問題集で、検定問題を解く。 ・全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定試験を受験して3級の資格取得を目指す。	・全国商業高等学校協会主催の簿記検定3級の合格を目指す。	40

\* 評価：A（十分に達成できた）、B（おおむね達成できた）、C（不十分であるが達成できた）、D（達成できなかった）

<評価の重みづけ>

課題提出：40% 授業内テスト：40% 出席：20%